

第3回鶴岡市総合計画審議会

平成26年2月17日
グランド・エル・サン

（普及版の作成）

市民への普及版は単なるドライな計画書ではなく、ストーリー性も含めたできるだけ分かりやすいビジュアルな普及版にして欲しい。

（コミュニティ）

コミュニティにおける帰属意識が低下し、団体への参加者も非常に少ないため、中学時代とか、若いときから教育し、意識改革を図っていくことが大事ではないか。

（環境基本計画等との関係）

現在の一般廃棄物の基本計画・環境基本計画が平成27年度頃までとなっており、後期基本計画の計画期間前に終わるので、廃棄物の最終処分場の関係、あるいはリサイクルセンターの関係も触れておく必要があるのではないか。ただ「延命化」という言葉でいいのか。

（交通安全キャンペーン）

山形DCキャンペーンに係わって、是非交通安全キャンペーン、とりわけ歩く人を守るというような観点から歩道のないところ、あるいは横断歩道などでの安全といった面のキャンペーンを是非取り組んで欲しい。

（山林火災対策）

バイオマス発電の稼働に伴い林道、作業道等、いろんな道路が整備され、一般の人たちもこれまで以上に山に入ることが予測される。もし万が一、この東北で一番面積の広い山が一旦山林火災になると非常に厳しい体制ではないかと思われ、是非、山林を守るといった訓練をして欲しい。

（医療と他業種との連携）

医療は単業種だけで医療ができないので、日本において先駆的に他業種、他医療業種の連携を考えていくべきでは。

（少子化対策）

子どもを多く産んだ人をほめたたえるようなことをしてはどうか。

（小学校の跡地利用）

廃校となる小学校の跡地利用についても総合計画で触れるべきでないか。

(障害者支援)

知的障害者への国の支援はあるが、いわゆるグレーゾーン、ADHD や広範囲自閉症などの子どもの就職への支援がないので、今後検討する必要がある。

(致道館教育)

先端研や大学と連携していく上での、致道館教育をベースにした小中高大までの一貫教育の視点も必要。

(チャレンジデー)

チャレンジデーについても総合計画に記載してもいいのではないか。

(家庭教育)

3世代であっても祖父母は孫の教育から離されている風潮があるように感じる。家族や地域の問題かもしれないが、やはりみんなで同じ方向に行くような体制でいくべきではないか。

(男女共同参画)

男女共同参画についてしっかりと進める中で、女性たちの産んで育てること、働いて自分たちの生計を立てていくこと、そして地域の中で皆さんの力が認められていくこと、そういったことも含めて、特に旧市内の既存の婦人団体の動き方が変様せざる負えなくなっているところがあるので、ぜひ今回の施策の中で述べられていることを前進させて欲しい。

(留学生用宿舎)

短期留学生の宿舎について、アパートの短期契約は非常にお金がかかることもあり、鶴岡市の空き家対策と併せて、互いにいい知恵を出し合えば、互いにメリットになるような解決策も得られるのではないか。

(都市部との交流)

江戸川区との子どもの交流について、今後も継続して欲しい。

(加茂水族館)

加茂水族館のオープンに合わせて、県の魚のサクラマスをそこで提供するなど、全国にPR できないか。

(環境保全型農業)

環境保全型農業について、消費者を対象とした講座や小中学生の実習は、これまでの協力体制のもとで進めていただきたい。

（農産物の海外展開）

本市農産物の海外展開について計画に入れるべきではないか。

（赤川花火大会）

赤川花火大会についても観光分野の計画に入れられないか検討して欲しい。

（高速交通ネットワーク）

高速交通ネットワークは庄内全体で考えていくべきではないか。